

## 第 18 期企業ガバナンス部会 研究会のテーマ

テーマ1	研究の狙い	メンター
<p>中小企業・スタートアップ企業のガバナンスのあり方や ESG 対応について、社外役員としてどう取り組むべきか？</p>	<p>研究会メンバー自身が中小企業・スタートアップ企業の社外役員になったつもりで、ガバナンス体制や ESG 対応などについて幾つかのシミュレーションをした上で、課題の抽出、対応策などを検討する。</p>	<p>小谷 荻野</p>
テーマ2	研究の狙い	メンター
<p>現在進められているガバナンス改革は、本当に企業の持続的成長と企業価値向上に効果をあげているか？</p>	<p>最近の調査結果で「社外取締役導入により企業価値向上が図れているのか?」、「現在のコーポレートガバナンス・コードの細部に亘る要請により形骸化となる恐れはないのか?」など、コーポレートガバナンス・コードやステewardシップ・コード等によるガバナンス改革が本当に企業の成長に寄与しているのか疑問である、との指摘も出てきている。</p> <p>このような中で、現在日本で進められている一連のガバナンス改革の動向を理解しながら、加えるべきアプローチを探る。</p>	<p>橋本 越後屋</p>
テーマ3	研究の狙い	メンター
<p>サステナブル経営のための非財務情報の開示について、取締役会としてどう取り組むべきか？</p>	<p>昨年度の研究会では、ESG 情報開示についての方向性並びにサステナブル経営に必要な7つの視点等につき研究した。</p> <p>今年度はサステナブル経営を実現するために、コーポレートガバナンス・コードでも重要なポイントの一つとして取り上げられている SDGs や ESG に関連する「非財務情報」の開示のあるべき姿について、取締役会としてどう取り組むべきか研究する。</p> <p>具体的には、中長期の企業価値向上という観点から幅広いジャンルを対象とするが、特に気候変動に加え、人的資本、知的財産等に焦点を当てたい。</p>	<p>田中 國安</p>